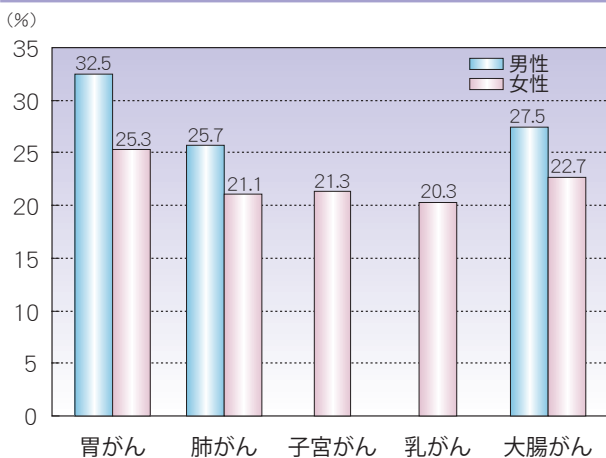


まだまだ低いがん検診の受診率

がんによる死亡者数が多くても、がん検診の受診率はまだまだ低いというのが現状です。日本では、壮年女性の死亡原因のトップは乳がんですが、その検診受診率は20%と、欧米の3分の1以下の水準です。また、壮年男性では肺がんが死因の1位ですが、こちらも受診率は26%程度です。

がん検診の受診率（全年齢）



平成19年 厚生労働省・国民生活基礎調査より

受診しなかった人の半数以上が、「心配ならいつでも受診できる」「時間が取れない」などを理由に挙げています。

健診や人間ドックを受けなかった理由の割合

(20歳以上複数回答)

心配な時はいつでも医療機関を受診できるから	30.6
時間がとれなかったから	24.7
めんどうだから	18.6
費用がかかるから	17.0
毎年受ける必要性を感じないから	11.0
健康状態に自信があり必要性を感じないから	10.0
その時、医療機関に入通院していたから	8.6
知らなかったから	5.4
結果が心配なため、受けたくないから	5.3
検査等に不安があるから	3.6
場所が遠いから	2.0
その他	11.4

注：①入院者は含まない

単位：%

②受けなかった者を100とした割合

平成19年 厚生労働省・国民生活基礎調査より

自覚症状が出てからでは・・・

しかし、初期のがんには、ほとんどの場合自覚症状がありません。「心配になる」ような状態になれば、すでに病状がかなり進行している可能性もあります。自分のためにも、家族のためにも、がん検診に関心を持ち、定期的に検診を受けましょう。

がん検診の普及拡大が、がんによる死亡者を減らすことにつながると見られており、07年（平成19年）に国が定めたがん対策推進基本計画には「がん検診の受診率を5年以内に50%以上とすること」が目標として掲げられています。